

エアライン・ホスピタリティコースのキャリアデザイン ～ その変遷と今後の展望 ～

日 坂 幸 司

要 旨

大学4年間での学生の成長は著しいものがある。大学は教育機関として何を提供でき、より効果的に定着させることができるのかエアライン・ホスピタリティコースの卒業生の残した実績をもとにキャリアデザインを考察する。

キーワード：エアライン、ホスピタリティ、キャリアデザイン

I. はじめに

2016年11月には訪日外国人数は当初の目標であった2,000万人を達成した。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催年には4,000万人を超える外国人の来日を目標に掲げる昨今、観光産業、流通産業をはじめ航空産業においても高い知識と語学力を有する人材が求められている。

2008年より発足したアビエーションマネジメント学類（以下AM学類と呼ぶ）は今年で9年の歴史を刻むこととなった。フライトオペレーションコース（以下FOコースと呼ぶ）、エアライン・ビジネスコース（以下ABコースと呼ぶ）、エアライン・ホスピタリティコース（以下AHコースと呼ぶ）の3つのコースからなる。2009年以来AHコースを担当しており、また2016年からは就職委員と入試委員を拝命したことから、入試から就職までの間、大学が何を提供し学生がどのように学び、成長すれば将来の道が開けるのかを卒業生の実績をもとに振り返りながら検証する。在学中の各種実績と卒業後の進路との係わりがあるのかを見極め、AHコースにおけるキャリアデザインを考察する。

II. AHコースを振り返って

1. 発足からのまとめ

2008年からAM学類は、ビジネスマネジメント学群（以下BM学群と呼ぶ）内に設立され、桜美林大学の見学の精神に基づき「国際的教養の豊かなビジネス・パーソンの育成」

を目標とし、ビジネスマネジメント学類（以下 BM 学類と呼ぶ）と共に 2 学類制となった。

AM 学類は航空業界におけるさまざまな職種において必要不可欠とされる分野を教育研究の対象とし、単にハイレベルな知識や技量だけではなく、豊かな人間性と教養を備えた国際的に活躍できる世界の空を「こころ」で結ぶ役目を担う人財を育てるために 3 つのコースを設置した。航空輸送産業などのグローバルな企業でマネジメントを行うことができる職業人を目指す「AB コース」、航空会社の客室乗務員や空港グランドスタッフなどとして活躍する基礎を養成する「AH コース」、航空会社の国内線、国際線のプロのパイロットとして活躍できる人財を養成する「FO コース」の 3 コースで構成された。^(注1)

2012 年度より BM 学群のカリキュラム改正が行われ「国際社会で必要なビジネス感覚を養い、広範な知識から発想し、意思決定の行える、新しい経営マインドを備えた人財の育成」を目標に「職業に直接結びつく」教育を行うこととした。ビジネスマネジメント学類はコース制からプログラム制に変更したが、AM 学類は 3 コース制を維持しカリキュラム構成は一部の変更に留めた。^(注2)

AM 学類の学生が卒業するために必要な単位数の対比は以下の通りである。

< 2008 年～ 2011 年 >

① 基礎学習：28 単位

コア科目 16 単位と「英語Ⅲ～Ⅵ」の中から 4 単位、「ビジネスの基礎」2 単位「現代社会のしくみ」2 単位、「現代経営入門」2 単位、「現代会計の基礎」2 単位

② 専攻学習：48 単位

所属する専攻科目から選択したコースごとに 24 単位、学群共通科目・所属学類専攻科目群の中から自由に 24 単位の合計

③ 自由学習：48 単位

④ 合計：124 単位

< 2012 年～ 2016 年 >

① 基礎教育科目：24 単位

コア科目 16 単位、「社会人基礎Ⅰ」2 単位、「社会人基礎Ⅱ」2 単位、「現代経営入門」2 単位、「現代会計入門」2 単位

② 専攻科目：56 単位

「BM TOEIC」または「アビエーション英語」8 単位、所属するコースより選択 24 単位、実習・演習科目・学群共通科目・学類共通科目・各コース専攻科目の中から選択 24 単位、学群共通科目・所属学類専攻科目群の中から 24 単位の合計

③ 基礎教育科目、専攻科目、自由選択の合計：48 単位

④ 合計：124 単位

AM 学類では航空業界の基本となる分野において活躍できる人財の育成をカリキュラムの基本ポリシーとし、要件を満たした者に「学士（アビエーションマネジメント）」を授与するディプロマポリシーとした。

AHコースでは、「経営的センスとホスピタリティマインドあふれたキャビンアテンダントやグラウンドスタッフ」を育てることを目的に、航空業界の基本的な経済・経営の基本を理解するアカデミックな科目と国際的な視点を養う科目、そして自己表現やホスピタリティなどの実践的な科目も用意した。また2年次の秋学期に「海外留学」を必修として組み込んでいることも大きな特徴といえる。

2. AM 学類の選考

学生は2年次よりBM学類とAM学類の選択を行うため、AM学類(FOコースは除く)は1年次秋学期に選考を行う。ABコースは書類にて選考を行い、AHコースは書類と面接(日本語と英語)にて選考を行う。なお2016年度からはABコースにおいても面接を導入した。

書類選考は1年次春学期のGPA、英語のレベル(プレースメントテスト、TOEIC、英検等の資格)と応募用紙により選考される。2次試験にあたる面接は英語と日本語でそれぞれの学生と10分間面接を行う。2009年度入学の学生は学類別に入試を行っていたが、ABとAHの各コース選択は他年度と同様1年次秋学期に実施した。

3. 学生数の推移

AHコースの定員は30名で、以下は卒業生数の推移である。後半でキャリアデザインを考察することから、2013年度入学者(2017年3月卒業予定者)も含めた数字とした。(表1)

表1

入学年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	総数
人数	30	26	27	24	28	30	165
男子	0	1	0	3	0	1	5
女子	30	25	27	21	28	29	160
退学			1*	1*			2
卒業生	30	26	26	23	28	30	163

* 退学者2名は3年次に進路変更のため退学した。

4. 成績分析

卒業生ならびに卒業予定者(2013年入学生)の成績(通算GPA値と1年秋の選考時の差異、プレースメントテストのレベルの平均)は以下の通りである。(表2)

2009年度までと2010年度以降の1年次春学期GPAと通算GAPが共に大きく変化するが、これは大学内で成績評価方法を見直した結果と推測される。カリキュラム変更を行った2012年度においては、大きな偏差は認められない。また英語レベルは入学時に全入学生に実施するプレースメントテストのレベルの平均値である。

表 2

入学年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	平均
1 年次春学期 GPA	3.42	3.37	2.94	2.79	2.9	2.77	3.03
G P A 値 (通算)	3.09	3.08	2.89	2.84	2.8	2.84	2.92
GPA 増減	-0.33	-0.29	-0.05	0.05	-0.09	0.07	0.11
英語レベル	2.37	2.5	2.19	2.33	2.36	2.3	2.34

* 2013 年度入学者の一連の成績は 2016 年度春学期までの成績。

* プレイメントテストは、レベル I～Ⅲがありレベル I が低位でレベルⅢが高位となる。

5. 入試の傾向

学生の出身高校と入試時の学生の受験形態別のデータは以下の通りである。

1) 入試形態による分類

入試の形態は複雑で年度ごとに変化している。(表 3)

表 3

入学年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	総数
AO 入学者選抜 (専願)	6	14	9	6	7	9	51
AO 入学者選抜 (併願)	3	0	1	0	0	2	6
AO 入学者選抜地区 (専願)	0	0	1	1	1	1	4
AO 入学者選抜 (キリ同盟)	0	0	1	0	1	1	3
AO 入学者選抜 (同窓)	0	0	1	0	0	0	1
AO 入学者特別選抜 (帰国)	2	1	1	2	0	0	6
学内進学者特別選抜	3	0	0	1	0	0	4
指定校制推薦入学者選抜	4	1	1	0	2	2	10
公募制推薦入学者選抜	4	1	3	4	3	4	19
大学特別選抜	0	0	0	1	1	2	4
センター入試利用入学者選抜	2	3	4	4	4	8	25
一般入学者選抜	6	6	5	5	9	1	32
総 数	30	26	27	24	28	30	165

2) 出身高校のレベルによる分類

全国の高校にはそれぞれランク付けがなされているが^(注3)、年度ごとの出身高等学校の平均レベルは 11.42 となり、比較的高いランクに位置する高校の出身者が多いことが分かる。(表 4)^(注3)

表 4

入学年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	総計
高校ランク	10.66	11.92	11.11	11.87	11.14	11.83	11.42

学生が2名以上在籍した高校の一覧は以下の通りである。(表5)
 特徴としては、3名以上卒業した高校はすべて私学である。オープンキャンパスに高校2年生の時から参加し、1年入学時からAM学類AHコースを希望した学生が多い。進学指導の先生の助言、また先輩からの口コミによるところが大きいと考えられる。

横浜隼人高校出身の学生は、AO受験3名、指定校1名、一般受験1名の5名が在籍したが2012年と2013年に4名入学している。このことは、卒業生の実績から進路を決めた要因が大きい。桜美林高校の内部進学者はオープンキャンパス等で高校在籍中から接点が多い。私立八王子高校は進学校で、4名の学生は2名センター利用また2名一般受験、一般受験の3期または4期での受験であることから、他校との併願の結果入学したものと思われる。

日大三島高校は静岡県東部では中高一貫校であるが、3名の内2名は特進コースに所属した学生で将来の進路希望から桜美林大学を選択した。(表5)

表5

横浜隼人	桜美林	八王子	日本大学三島
5	4	4	3

2名入学の高校は東京並びに神奈川の公立高校と東京の私立高校である。その他の地域では、地方のキリスト教系高校また上位レベル高校に分類できる。これらの高校は地域では中堅上位または上位校に位置づけられているが、入学した多く学生が先輩の口コミと進路指導教員の指導で選択したと述べている。(表6～8)

表6 <東京公立>

日野台	翔陽	南平	町田
2	2	2	2

表7 <神奈川公立>

大和西	港北
2	2

表8 <東京私立>

多摩大学目黒	淑徳巣鴨	武蔵野女子学院	トキワ松学園
2	2	2	2

3) 出身地による分類

出身地別に見ると AH コース卒業の半数の学生は東京都と神奈川県出身である。茨城県、埼玉県、千葉県の間東圏出身者も上位を占める。また静岡県また長野県からの出身者も多く、関東圏とその周辺県で2割を占める。(表9)

表9

北海道・東北	北海道	青森	秋田	山形	福島	茨城	栃木
	5	1	2	3	2	6	4
関東	埼玉	千葉	東京	神奈川			
	6	6	46	42			
中部	山梨	静岡	長野	新潟	愛知	石川	
	4	8	7	3	2	2	
近畿・中国・四国	大阪	広島	高知	愛媛			
	1	1	1	1			
九州・沖縄	福岡	熊本	鹿児島	沖縄			
	2	4	3	3			

6. 留学と英語力

2年生の秋学期に4ヶ月間の短期留学を必修としている。英語力のレベルアップと共に異文化に触れ合うことを大きな目標としていることから、全員ホームステイを行うプログラムとなっている。留学先は2008年度から2011年度まではカナダのプリティッシュコロンビア州カムループスにある「Thomson Rivers University」に留学していたが、2012年度からはアメリカのアリゾナ州にある「アリゾナ州立大学」に留学先を変更した。変更理由は、カナダの「Thomson Rivers University」では桜美林生固有のカリキュラムを組めたものの現地学生また他の留学生との接点が少なく異文化を理解するには不十分と判断したためである。より多様な機会を設けることができる大規模な大学でまたESLプログラム(English for Second Language)が充実しているアリゾナ州立大学に留学先を変更した。アリゾナ州立大学では、語学科目は学生各自のレベルに合わせてクラス分けされ、他の外国人留学生と共に午前中に開講され、午後はツーリズムとホスピタリティの授業を専攻する。また週1回、フェニックス・スカイハーバー国際空港のインフォメーションセンターで週3～4時間程度の案内業務のボランティアが用意されている。帰国後の学生からのコメントでは、このボランティア経験が英語力を確認する気づきの場となりまた本物のアメリカの航空利用旅客に接し、英語力の不十分さに気づき、サービスフロントとしての厳しさも感じる事ができる良い機会となっていたと報告されている。語学だけではなく異文化の下で職業体験ができるアクティブラーニングのプログラムとなっている。

ホームステイ先では、留学当初は語学力不足からうまく意志を伝えることができずホストファミリーとの細かいすれ違いは決して少なくない。ホームステイ先では家庭内ルールを定めているところが多く、まずその内容を理解するのに時間を要する。そして学生は窮屈さを感じる。まさに異文化理解力と対応力が試される場面となる。ホームステイ先との

トラブルが大きい場合はホームステイ先を変更することになるが、先方の状況変化（ホームステイ先の家族の病気等）によりホームステイ先を変更したケースも含めると毎年数件発生している。

4ヶ月の留学期間は決して長くない。学生の英語力の伸びを考えると、より長期間の留学が望ましいが、語学だけではなく、多くの体験を組み込んだ効果的な留学プログラムになっているものと判断する。

アリゾナ州立大学では、留学開始時と終了時に TOEIC IP テストを実施し各自の英語力の伸長を測定している。年度ごとに多少の偏差はあるものの平均で約 100 点の伸びが確認できており、今後ともより効果的な学習ができるようプログラムを進化させたい。

2年次秋の留学終了後、英語をより一層学びたいという理由から桜美林大学の長期留学プログラム (SYA/JYA) で 3 名、休学による留学で 10 名、総数で 13 名が 3 年次以降に再度留学している。(表 10)

表 10

留 学	SYA / JYA	休学留学	総 数
2008	1	2	3
2009	1		1
2010		3	3
2011		3	3
2012	1	2	3
2013			0

7. 大学における学び

2012 年より BM 学類ではカリキュラムが変更されたが AM 学類では大きく変更されることはなかった。

2012 年より開始された新たなカリキュラムで AH コース所属の学生がどのような科目を履修し、どのような結果を残したのかを検証した。卒業に必要な必修科目を除き自由に選択できる代表的な専門科目の履修傾向を列举すると以下の通りである^(註4)。

キャリアデザイン I はほぼ全員が履修しているがキャリアデザイン II になると履修者が減少している。

コンピューターリテラシー II は必修ではないが一年の秋学期に多くの学生が履修している。

専攻演習は留学ため 2 年次の秋学期は履修していない。したがって専攻演習 I は履修していないが、専攻演習 II 以降はほぼ全員が履修している。

ホスピタリティ関連の特別講義 III は、特に女子に人気がありほぼ全員が履修している。

学類共通科目の現代ホスピタリティは 1 年生の段階で履修できることから履修者が多く、次にビジネスマナーが人気である。

BM 学類の授業では、観光地理 (23 名)、ブランド論 (12 名)、テーマパーク論 (9 名)、

マーケティング入門（8名）、日本の経営者（7名）、リスクマネジメント入門（5名）の履修者が多い。

ABコースの専門科目では、航空輸送産業実習（41名）の履修者が一番多い。これはAM学類内の実習科目で空港などに出向き春夏の休暇期間に履修できることから人気が高い。航空実務概論（40名）、オペレーションコントロール概論（40名）、エアラインの営業戦略（34名）、乗員養成と乗員計画（33名）、航空輸送概論（31名）、航空特論Ⅰ（28名）、航空とICT（24名）、航空法入門Ⅰ（21名）の順に履修者が多い。

AHコースの専門科目では、エアライン・コミュニケーションⅠ（英語）の授業を全員履修している。次に履修者の多い科目は、航空マーケティング（54名）、グローバル教養論（50名）、観光情報戦略論Ⅰ（49名）、観光情報戦略論Ⅱ（49名）、顧客心理（48名）、国際ツーリズム論（44名）、ホスピタリティ特論Ⅰ（43名）、ホスピタリティ特論Ⅱ（40名）、国際ビジネス戦略論（37名）である。

他学群の授業は語学を中心に履修者が多く、英語エクステンションは延べで61名履修しているので、一人一回は英語エクステンションを履修していることとなる。代表的な授業は、英語エクステンションB（TOEIC Skills- 3）（14名）、英語エクステンションB（Basic Speaking- 1）（9名）、英語エクステンションB（Discussion- 2）（6名）である。

英語以外の言語では、中国語Ⅰ（20名）、コリア語Ⅰ（11名）、中国語Ⅱ（10名）スペイン語（6名）、フランス語（4名）である。多くの外国語の科目はレベルが上がるにつれ履修者は減少するが、ドイツ語Ⅰ（3名）、ドイツ語Ⅱ（2名）、ドイツ語Ⅲ（2名）の履修者は減少していない例もある。

キャリアデザインは、キャリアデザインⅠ（52名）、キャリアデザインⅡ（47名）と多くの学生が履修している。これはキャリア開発センターからの案内と指導が大きく影響しているものと思われる。

AHコース生の履修した科目を分析すると、2年生の秋学期のアリゾナ州立大学への留学までと帰国後とは履修傾向が違ふ。留学前までは英語を中心に基礎科目またBM学類とAM学類の専門基礎科目を履修し、帰国後の3年次には本人の進路に向けた専門科目を中心に履修していることが分かる。成績優秀者は3年の秋学期には卒業に必要な124単位を修得している場合が多く、4年次は他学群の授業を積極的に履修する者もいる。

これらのことから、AHコース生の履修科目はホスピタリティ科目に偏ることなく、大学が当初目指した航空業界の経済・経営の基本を理解するアカデミックな科目と国際的な視点を養う科目、そして自己表現やホスピタリティなどの実践的な科目をバランスよく履修できていると判断する。

8. 就職結果の分析

桜美林大学では前述のキャリア開発センターがあり入学から卒業まで学生の将来設計（キャリアデザイン）を支援している。将来の夢や学生本人の適性、社会の動向などを見

据えながら、将来の多様な進路に向け一人ひとりにアドバイスを行っている。またキャリアデザインの授業は 2016 年度からは 1 年生用の授業が開設され、1 年生から 4 年生まで将来の進路に向けた授業を履修できるシステムとなっている。

AM 学類生は 2 年次にコース選択をする前から将来の進路が明確に描けている学生が多いことから、入学時から将来に向けた授業を選択する者もいる。

AM 学類各コースの進路希望の特徴は、AB コース生の男子学生は、飛行機大好きというマニアックな学生も多く、航空関連産業の現場の仕事を希望する。女子学生は、かなり専門的な職種、たとえば航空管制官とか飛行プランを作成するディスパッチャーとかの特殊な仕事を希望する者と、将来航空会社のキャビンアテンダントやグラウンドスタッフとしての道を希望する者が混在する。

AH コース生は大半が女子学生で、多くは航空関連のサービスフロントとしてキャビンアテンダントやグラウンドスタッフの道を希望している。

2008 年以降の AH コース卒業生の主な就職先は、以下の通りである。2013 年度入学生は内定の状況であるが傾向をつかむため一覧に入れた。

大半の AH 生はキャビンアテンダントを希望していることは前述の通りであるが、キャビンアテンダントは、保安要員であることから身体的基本要件がいくつか存在する。航空会社ごとにその内容は多少違うが、①健康であること（「呼吸器・循環器・耳鼻咽喉・眼球・脊椎・腰椎などに異常のないこと」と応募要項に記されている。）、②矯正視力 1.0 以上であること（コンタクトレンズ使用可）、③ TOEIC600 点以上を有すること（国内線を運行している航空会社では一部 TOEIC550 点以上の応募要項のところもある。）（表 11）

キャビンアテンダントの身長に関しては日本の航空会社は明確な基準を明記していない

表 11 就職実績 <キャビンアテンダント>

客室乗務員	2008	2009	2010	2011	2012	2013	総計
日本航空	1	2	3	0	3	4	13
全日本空輸	4	3	5	2	5	1	20
スカイネットアジア航空					1		1
株式会社 AIRDO			1				1
SKY MARK	2						2
Star Flyer		1					1
春秋 JAPAN						1	1
フジドリームエアラインズ				1			1
日本エアコミューター	1						1
日本トランスオーシャン航空			1			1	2
大韓航空	1						1
シンガポール航空	1						1
エミレーツ航空			1			1	2
エバー航空			1				1
マカオ航空				1			1
*（ ）内は既卒採用者							49

が、外資系の航空会社では160cmをひとつの目安としている場合が多い。この基準は新規機材の導入などの経営環境の変化に伴い変更される場合もあり普遍ではないが、大型機材を運行する多くの航空会社は身長160cmを目安に募集を行っている。

- ・ シンガポール航空 160cm 以上
- ・ エミレーツ航空 つま先立ちで腕を伸ばし、最低212cmまで届くこと
- ・ カタール航空 157.5cm 以上

グランドスタッフ、旅行会社、ホテル等に関しては身長の基準はなく、人物次第といえる。これらの業界は英語力が不可欠であることから、桜美林の学生で留学経験があり英語ができ異文化対応ができる人財であれば大変有利になっていると判断する。(表12, 13, 14)

表12 就職実績 <グランドスタッフ>

客室乗務員	2008	2009	2010	2011	2012	2013	総計
JAL SKY	3	2	1	1	1	8	16
JAL NAVIA		2	1	1		1	5
JAL SKY 那覇						1	1
ANA エアーポートサービス(羽田)		1			3	3	7
ANA 成田エアーポートサービス	1				1	1	3
ANA エアーポートサービス(新千歳)			1		1		2
ANA エアーポートサービス(那覇)	1						1
ANA テレマート					1		1
ドリームスカイ名古屋		1					1
ANA スカイサービス						1	1
							38

表13 就職実績 <旅行会社>

旅行会社	2008	2009	2010	2011	2012	2013	総計
JTB					1		1
近畿日本ツーリスト					2		2
クラブツーリズム	1						1
HIS	1						1
トップツアー	1						1
エボラブル・アジア					1		1
日新航空						1	1
							8

表14 就職実績 <ホテル>

ホテル	2008	2009	2010	2011	2012	2013	総計
パークハイアット東京				1			1
グランドハイアット東京				2			1
帝国ホテル	1						1
横浜ベイシエラトン	1						1
ホテルニューグランド			1				1
松泉閣 花月	1						1
ルートイン				1			1
							7

希望者の多い4社（日本航空キャビンアテンダント、全日空キャビンアテンダント、JAL スカイ、ANA エアポートサービス）の桜美林大学からの合格者の実績データである。

（表 15）

表 15 就職実績 <旅行会社>

	合格者数	1年次春学期 GPA	GPA 値(通算)	英語レベル	身長	高校ランク
JAL CA	13	3.18	3.14	2.38	163.66	9.92
ANA CA	20	2.99	2.84	2.35	162.74	11.05
JAL SKY	16	3.09	3.02	2.73	158.53	10.73
ANA AS	13	2.85	2.84	2.24	161.71	11.78

英語力は最終のデータ（学生がエントリーシートに記入した TOEIC の点数等）が把握できていないため正確な分析はできないが、おそらく最高点は TOEIC900 点、最低点は TOEIC500 点ではないかと思われる。多くは応募基準の TOEIC600 点は超えているが、基準点以下の者には入社までに基準を超えるよう内定先の企業より指導がなされている。

男子学生は過去5名在籍したが、進路変更（アメリカの大学に転校）により1名退学した。グランドハイヤット東京（1名）、楽天（1名）、朝日航空（1名）に就職し、1名は ANA エアポートサービス（ANA AS）に内定している。

航空産業以外では、上記の通り旅行会社とホテルが主な就職先となっている。これらの企業は AH コース生には滑り止めの意味で受験している場合が多く内定を取得しても航空関係の企業に進む傾向が強い。これら企業に進む学生は、いわゆる敗者の意識がある者もあり、業務が大変厳しい場合が多いことから長続きしないケースもある。一方総合職として旅行会社などの本社機構に配属された者は、厳しいと言いつつもやりがいを持って活躍している。

その他の就職先企業は、航空管制官また都庁などの公務員、銀行などの金融機関、マスコミなどと進路は多岐にわたる。

学生にはまずは「私は何がしたい」を定め、そして将来の進路に向けて「私は何ができる」のかを述べられるよう大学生活4年間を有効に使うよう指導している。大学から見た進路指導では、どこのどのような企業に内定し就職したかが大きな話題となり実績となる。学生も保護者もまた大学関係者もこの内定先が終着点のように考えがちだが、就職後いかに就職先企業に定着でき活躍できるかが本当の課題だと考える。多くの企業で数年もすれば職場のリーダーとして活躍が求められることから、就職対策としてだけでなく自分に自信の持てるものを大学生時代に見つけ、努力して修得することを推奨している。この意味でも英語力の伸長は重要である。

社会に出た卒業生には機会あるごとに大学を訪れてもらうことを卒業時においてお願いしている。先輩が後輩に飾らない言葉で会社の状況を語る場合は、在校生にとっては生の声を聞くよき機会となっておりまた卒業生も在校生の熱い思いを感じ、初心を思い返すきっかけと

なっているようである。今後ともこのような機会を増やしたいと考えている。

大学時代の実績とキャビンアテンダントと地上職に合格する相関分析は表16の通りである。

大学時代に残した実績データからは、就職先と強く結びつく因子は見当たらなかった。就職に関しては、多くのAH卒業生が目指す企業・業界が接客業であることから、メラビアンの法則という第一印象を構成する要素のデータ（「視覚」55%、「聴覚」38%「言語」7%）を含めることができれば、何らかの複層的な因果関係を見出すことも可能かもしれない。

表16 相関分析

		ANA CA	JAL CA	ANA 地上	JAL 地上	内定 合計	1年次 春学期 GPA	GPA値 (通算)	身長	英語 レベル	高校 ランク
ANA CA	Pearsonの相関係数	1	.940**	.945**	.954**	.439**	-.046	-.028	-.004	.000	.008
	有意確率(両側)		.000	.000	.000	.000	.559	.721	.961	.996	.918
	度数	166	166	166	166	165	166	166	166	166	163
JAL CA	Pearsonの相関係数	.940**	1	.931**	.941**	.336**	-.017	.022	.009	.001	-.026
	有意確率(両側)	.000		.000	.000	.000	.825	.774	.913	.990	.746
	度数	166	166	166	166	165	166	166	166	166	163
ANA 地上	Pearsonの相関係数	.945**	.931**	1	.946**	.364**	-.065	-.017	-.032	-.037	.007
	有意確率(両側)	.000	.000		.000	.000	.409	.828	.680	.632	.928
	度数	166	166	166	166	165	166	166	166	166	163
JAL 地上	Pearsonの相関係数	.954**	.941**	.946**	1	.451**	-.039	-.009	-.062	.040	.007
	有意確率(両側)	.000	.000	.000		.000	.614	.912	.429	.610	.926
	度数	166	166	166	166	165	166	166	166	166	163
内定合計	Pearsonの相関係数	.439**	.336**	.364**	.451**	1	-.030	.052	-.038	.120	-.103
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000		.707	.503	.632	.123	.190
	度数	165	165	165	165	165	165	165	165	165	162
1年次春学期 GPA	Pearsonの相関係数	-.046	-.017	-.065	-.039	-.030	1	.772**	-.031	-.015	-.146
	有意確率(両側)	.559	.825	.409	.614	.707		.000	.691	.851	.063
	度数	166	166	166	166	165	166	166	166	166	163
GPA値(通算)	Pearsonの相関係数	-.028	.022	-.017	-.009	.052	.772**	1	.004	.029	-.090
	有意確率(両側)	.721	.774	.828	.912	.503	.000		.957	.712	.253
	度数	166	166	166	166	165	166	166	166	166	163
身長	Pearsonの相関係数	-.004	.009	-.032	-.062	-.038	-.031	.004	1	-.057	-.084
	有意確率(両側)	.961	.913	.680	.429	.632	.691	.957		.467	.286
	度数	166	166	166	166	165	166	166	166	166	163
英語レベル	Pearsonの相関係数	.000	.001	-.037	.040	.120	-.015	.029	-.057	1	-.096
	有意確率(両側)	.996	.990	.632	.610	.123	.851	.712	.467		.221
	度数	166	166	166	166	165	166	166	166	166	163
高校ランク	Pearsonの相関係数	.008	-.026	.007	.007	-.103	-.146	-.090	-.084	-.096	1
	有意確率(両側)	.918	.746	.928	.926	.190	.063	.253	.286	.221	
	度数	163	163	163	163	162	163	163	163	163	163

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

Ⅲ. 今後の展望

1. 専門学校との違い

航空関係の企業に人材を輩出している大学は、主に GMARCH クラスの大学と上智・早稲田・慶応が多い。ここ数年は航空会社の拡大経営戦略から 1,000 名単位で募集する企業もある。そこで上記の上位校以外でも航空関連企業に就職実績のある大学がいくつかある。いわゆる文科系の大学であるが、主にホスピタリティ学部とか既存の学部内にホスピタリティマネジメント学科等を設置している。外国語学部の名称のまま内部でキャビンアテンダントコースとかサークルのような位置づけで指導がなされている場合もある。(表 17)

航空関連企業を目指す専門学校は多数存在するが、多くは短大生や大学生を対象にダブルスクールとして語学講座と就職対策講座を提供している。また 2 年間の短期大学並みのカリキュラムを有する専門学校も存在する。カリキュラムを見ても英語の授業とスキル訓練が主である。前職の時代に採用面接を行う機会があったが、専門学校の卒業生は、言葉遣い、所作などは十分訓練されているが、いわゆる応用問題には対応できないケースが多い。つまり形にこだわるあまりに、自分で判断し自分の言葉で表現ができない学生が多かった。安全運行を至上命題とする航空会社では、瞬時の判断が求められることから自己表現ができない、つまり自己判断ができないと見なされ合格にはつながらない場合が多いと思われる。

表 17 ホスピタリティ系の大学

大阪学院大学	経済学部	ホスピタリティ経営学科
亜細亜大学	経営学部	ホスピタリティ・マネジメント学科
熊本学院大学	商学部	ホスピタリティ・マネジメント学科
松本大学	総合経営学部	観光ホスピタリティ学科
関東学園大学	経営学部	経営学科
明海大学	ホスピタリティ・ツーリズム学部	
神戸海星女子学院大学	現代人間学部	観光ホスピタリティ学科
名古屋外国語大学	外国語学部	国際教養学科
東洋大学	国際観光学部(2017/04～改組)	国際観光学科
東海大学	観光学部	観光学科
関西外国語大学	外国語学部	

2. 航空会社が求める人材像は……

キャビンアテンダントは TOEIC600 点以上、グラウンドスタッフは TOEIC550 点以上、矯正視力 1.0 以上等、健康であることとあり、採用条件としては特別な基準ではないことが分かる。最近企業の HP など自社「求める人材像」という言葉を使い、企業が採用したい人材にメッセージとして発信している。

JAL グループの求める人財像は以下の通りである。

- ・ 感謝の心と、謙虚な学び……感謝の気持ちを常に持ち、世の中すべてから謙虚に学び、地味な努力を重ねて自己成長できる人財
- ・ 果敢に挑戦し、最後までやり遂げる……失敗を恐れず常に新しい事に挑戦し、人任せにすることなく最後までやり遂げる人財
- ・ プロ意識……自分の仕事に誇りと責任を持ち、地道に自分の専門を極める人財
- ・ 採算意識……JAL グループが社会から必要とされ、永続的に発展する為に、強い採算意識を持つ人財
- ・ 仲間と共に働く……仲間とともに働き、仲間のために頑張ることに誇りと喜びを感じられる人財
- ・ お客さまに心を尽くす……全てのお客さまに、感謝の気持ちを形にしてお返しすることができる人財

出典： http://www.job-jal.com/about_rec/index.html

採用面接官は上記の求めるような人財の採用を目指して、以下のような具体的項目で判断していると思われる。

- ・ 親しみやすくあたたかい第一印象
- ・ コミュニケーション能力
- ・ シミュレーション能力
- ・ ストレス耐性
- ・ 健康
- ・ 一般常識
- ・ 語学力

一般常識は SPI テスト等のテスト結果、語学力は TOEIC 等の証明書、健康は健康診断結果で分かる。面接で確認しなくてはいけないことは第一印象、コミュニケーション能力、シミュレーション能力、ストレス耐性となる。

面接官は限られた時間内で、個別または集団の中から受験生の外的な印象やスキルと内部に潜む人間力を探し出し評価をしようとする。複数の応募者を見るグループ面接であった場合と最終面接などで実施される個人面接では応募者の側もまた面接官側も対応に違いが出る。どちらが相応しいのではなく多面的な方法で応募者を見て判断することは望ましいことである。

応募者の学生には、周囲と協調しバランス感覚を持ちながら、自己の違いをアピールするよう難しい提言をしているが、自然体で「素の自分」で面接に臨めば多くの場合良い結果が出ているように思われる。

3. AH コースにおけるキャリアデザイン

高校時代から将来の夢を持ち職業観も明確な学生多い AH コース生には、キャリアアドバイザーが一般的に尋ねる「将来何をやりたいですか？」との質問はまったく不要である。航空関係に限らず将来へ明確な希望を持つ学生が集まってきており、2年春のコース立ち上げ時には動機づけは完了している。

2年次は技能（スキル）にあたる語学力アップに最大の目標を置く。秋学期の留学に向け春学期より英語と異文化理解に必要な授業を設けており、この間に学生としては専門科目の履修も行う。とりわけ航空関連の事業論とかホスピタリティ関連の授業を合わせて履修するケースが多い。秋学期はアリゾナ州立大学へ留学する。

3年春は、専門科目を中心に履修し、3年の夏休みにインターンシップまたは国内外の実習授業に参加する。この間英語力は TOEIC 試験を継続的に受験するよう指導している。3年秋は専攻演習のまとめの時期ともなり個人の課題、グループ課題に専念する。

2015年から、試験・面接開始時期が6月に変更となり、企業は3年生の秋学期からインターンシップの名称で説明会を開始している。慌ただしく動く学生もおり、落ち着かない期間が長くなったような気がする。

秋学期終了後の2月頃からプリアントリーと称して航空各社は応募者数の把握に入る。これにより面接会場の確保、面接官の確保、採用日程の確定がなされることから企業側にとっては大変重要なスタート点だが、学生側は説明会もないまま WEB サイトで申し込みをすることになる。まあ SNS が進化したことから可能となった現象でもある。

4年生の春学期は落ち着かない。3月に説明会開始、6月に面接開始の2016年の日程では活発に就活を実施する学生は自宅、学校、訪問企業を頻繁に往復する。AH コース生の半数は3年で卒業に必要な124単位を修得済みで就活に集中できている者も多い。ただしこの間はエントリーシートの添削や模擬面接の練習などを通じて学生のコアの部分（学生にとって伝えたい重要な部分）を整理しまとめる時期である。

AH 生を見ているとエントリーシートをきれいな文章を書こうとする傾向が強い。エピソードを用意し学生本人が述べたい主旨を記していくが、何回も書きくわえる過程で本来の学生の主旨とはかけ離れたものとなっていることが多くある。面接も同様で時間をかけ自分が伝えたいことを整理できてくる反面装飾語が増え何が伝えたいのか分からなくなる。これらの過程を2～3か月かけて、「自分とは何か」「相手に何を伝えるべきか」等を学生それぞれが整理できて面接に臨めれば、合格の確率は高まる。学生には「素の自分示せ」と伝えている。

10月1日までに希望通りの内定がもらえるかが学生本人の満足につながり学校の評価ともなりうる。エミレーツ航空に合格した者は8月より訓練を開始しておりすでに海外在住である。しかしこの時期内定を修得できていない学生もいる。あまりに特定の業種にこだわっているためであるが、これも学生本人の人生であることから助言はできても決断は本人となる。これも大学におけるキャリアデザインである。

IV. まとめ

航空関係等やホスピタリティ産業の将来を担う人財を育てるという大きな目標を持ち、大学の理解と多くの教員と関係者のみなさまの力で何とかここまで育てることができた。外的要因に影響を受けやすい航空関連企業では、オリンピック開催後の2021年以降の事業計画は明確ではない。来年度入学の学生はオリンピック後の2021年卒業となる。時代の変化が激しい中、学生は4年間の大学生活で自己研鑽することは当然であろうが、卒業後の将来に新たな不安な要素を持つこととなる。

今年より入試委員と就職委員を拝命して入口から出口まで一連の流れを見ることができたが、キャリアデザインは時代とともに変化するものとする。大学は学生の4年間の学びの場を提供するとともに、社会と学生とを結び付ける新たな仕組みを共創できないかを模索する必要があると考える。社会と学生のコーディネータとしてこれからの日本を支える人財を作っているという意識で学生それぞれにキャリアデザインを描くお手伝いをしたい。

注

(注1) 出典：桜美林大学 2008年入学者用履修ガイド

(注2) 出典：桜美林大学 2012年入学者用履修ガイド

(注3) 桜美林大学入試事務室が作成したランク。1～20のランクがあり最高位は1、最下位が20となる。

(注4) 新カリキュラム履修生は2012年度28名と2013年度30名、合計58名である。

参考文献

桜美林大学 2008年度入学者用履修ガイド

桜美林大学 2012年度入学者用履修ガイド

桜美林大学 2016年度入学者用履修ガイド

月刊エアステージ 2016年2月号～5月号 イカロス出版

客室乗務員（地上職）に一ヶ月で合格する本 2015 にんげん出版

大学生のキャリア開発 梶原豊他著 2014 同友館

「働く居場所」の作り方 花田 光世著 2013 日本経済新聞出版社

大学生のためのキャリア開発入門 渡辺 峻（編者）他 平成17年11月1日初版 中央経済社